

佐伯 洋 先生

初めてお手紙 お送りします。私は半年前、6月26日に千代田高校で開かれた第43回大阪学童保育研究集会に参加した者です。夏至直後の猛暑の日でしたが、佐伯さんのとても楽しいお話を妻と伺い、おりのまま→女王アリといった駄洒落、うんこの作文といった子どもたちのずこけ作文の紹介に、大笑いしました。かならず、手を洗いましょうの字の横に朱色の渦巻を添える話、そして、あなたは非売品やから、という美しい話に、とても驚きました。

ご講演後、校内で「子どもはどこで生きる力をたくわえるのだろう」という本を購入し、佐伯さんのサインまで頂きました。私は長距離通勤なので、その時間を利用して本を一気に読みました。拝読し、何度も涙が出ました。私は44歳のおさんですが、子持ちになってから どうも涙もろくなりました。私はひよろひよろ男ですが、それでも男は泣かない、という価値観から逃げられない奴です。

子どもの作文は、どれも素晴らしいですね。私は、よくいじめられました。特に中学生の時、しかも先生からも、です。今は特に恨みはありません、私が色々悪かったのだと思っています。ただ、私はやさしい人間になろう、困っている人と話ができる人間になろう、と思ったのです。私は誰かに助けられたのでしょうか、感謝すべき人を私は全負わっているのか、わかりません。

どこかで佐伯先生のような方にお会いしていたのかもしれませんが。

私の子は6年間通った保育園を卒園して、今年度から学童保育に通っています。保育園では、大人、そして親として、たいぶ勉強させてもらいました。学童保育でも勉強の続きです。そうそう、佐伯さんの講演で、お子さんを自転車の後ろに乗せて保育園から帰ってくる時、月はなんで形が変わるのかな〜、でしたでしょうか、お子さんの質問に、一緒に乗っていた兄弟からの「自然観」に、そうやな、そんなもんかなあ、とお答えになったということも、とても印象深いお話として覚えています。お迎えが遅くなったら、園長先生が見て下さっているので「延長保育」というのも、素敵なお話でした。こんな前向きな考え方もあるんですね。

本を買ってすぐ読み、そしてそのあとすぐにお手紙をとお考えしていましたか、半年も経ち、年も越えてしまいました。しかし、どうしても一言をお伝えしたく、お手紙をお送り致します。子どもは子ども時代を生きる、というお話、本当にありがとうございました。

2012年1月1日

富田 晃彦 とみたあけひ